

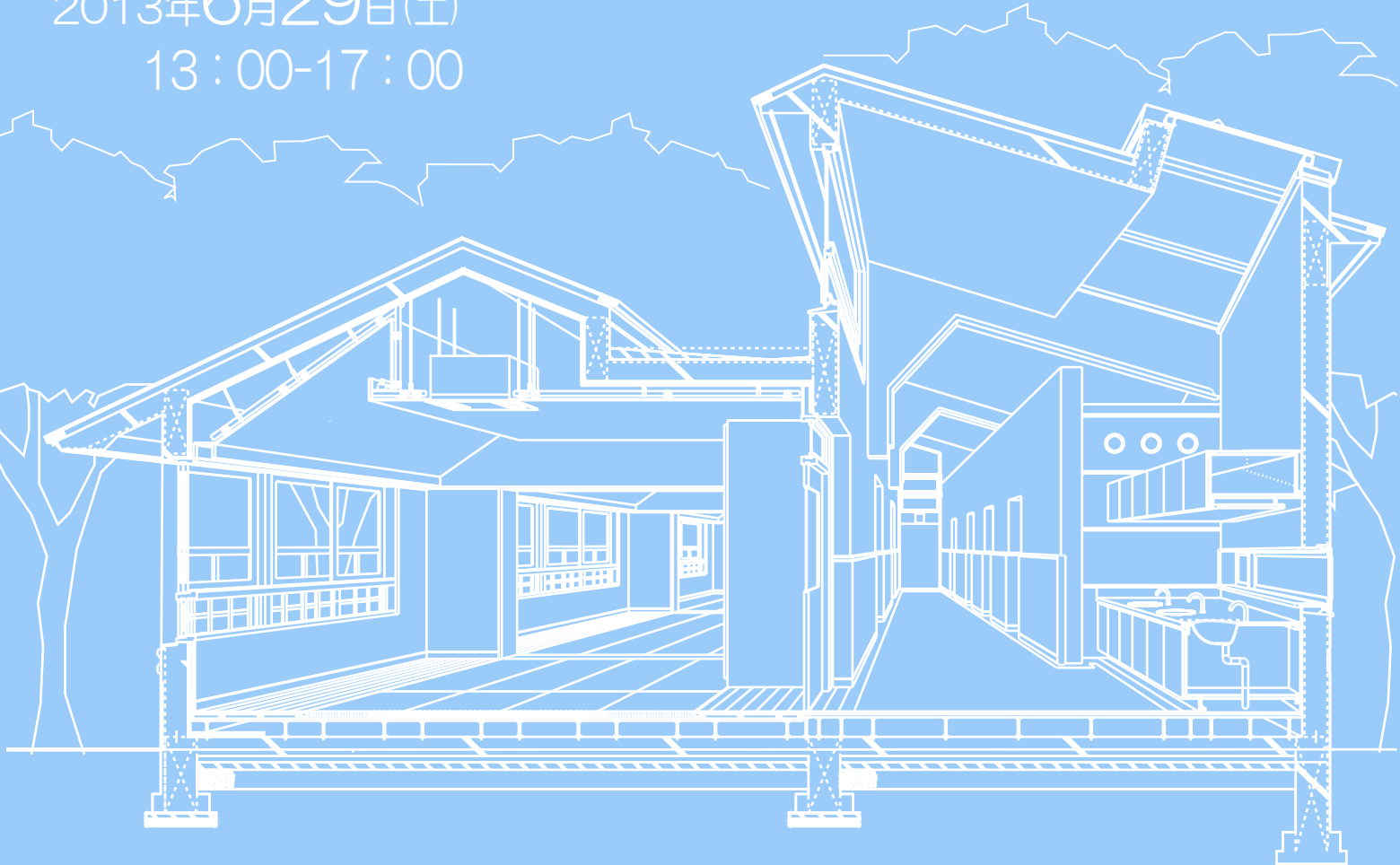
わたらせ養護園

福祉型障害児入所施設

「わたらせ養護園増築棟」見学会のお知らせ

群馬県の赤城山麓に「わたらせ養護園増築棟」が完成いたしました。本館は25年前に山岡が、坂倉建築研究所在籍時に設計・監理を担当しましたが、今回の増築棟は、福祉関係法令の改正に伴う補助金による「拡張工事」で、設計4ヶ月、工事5ヶ月という短工期で完成いたしました。お時間の許す方は是非お出かけ下さい。

2013年6月29日(土)
13:00-17:00



日時：2013年6月29日(土)13:00-17:00

場所：群馬県桐生市新里町奥沢59-1

交通：東武線赤城駅よりタクシー10分

当日連絡先：090-3237-4723 (山岡)

090-1850-3304 (植谷)

※赤城駅にて「新里町奥沢のわたらせ養護園まで」とタクシーの運転手に教えてください。近傍のわたらせ養護学校と間違えやすいので、注意が必要です。

※施設の性質上ご参加頂ける方は、事前にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

主要用途：児童福祉施設

構造：鉄筋コンクリート壁式構造

建築面積：1047.40㎡(増築棟204.92㎡)

延床面積：1146.83㎡(増築棟204.92㎡)

敷地面積：2833.45㎡

設計：山岡嘉彌デザイン事務所

担当：山岡嘉彌/植谷英子

構造：木村佳夫建築構造設計室

設備：長谷川設備計画

施工：小川建設群馬支店

連絡先・申込み

山岡嘉彌デザイン事務所

〒106-0044 港区東麻布3-10-3-4F

TEL:03-3588-0951 FAX:03-3588-0961

E-MAIL:hideko@yamaoka-architects.co.jp

家庭的な「大きな家」の中で大きな愛情につつまれて育つ

知的障害のため、自ら病気を訴えられない子の為に介護の先生は、添寝によって熱の有無の確認、病気の発見につとめる。

国は昨年、知的障害をもつ幼児も在宅介護が原則としている。しかし、この子は生まれつき障害をもち帰る家のない子も少なくない。ある子は両親に棄てられ、ある子は両親共に刑務所である。原則が通用しない子は、帰る家がなく24時間この「家」にいる。ここに暮らす子は知恵遅れの子であり、自閉症の子であり、さまざまな障害を罹っている。知恵遅れの子は、遺伝的に身体も虚弱で運動能力も劣っているといわれ、からだつきもひ弱である。一方、ひとつのことへの執着心が強く、単純な行為の繰り返しで結果的に大きなことを引き起こす。これが良い方向に向けば、天才的芸術家も生まれ、方向を間違えたと「破壊者」となる。軟弱そうでいて力強く、壁や扉を蹴破り、木製建具をかじり、危険のないようにと配慮したゴム製の家具のツマミや戸当りはかじった上食べてしまう。「ガラスは割れると危険」という常識は通用しない。ガラスを割った後は、更に細かくしようとガラスの上に素足でジャンプし続ける。バリバリとの音、足裏の感触が心地良いらしい。足の裏は血だらけで、血が滴っている。知覚が鈍いので痛みを感じない。発見した先生の悲鳴が聞こえる。トイレでは、自ら排泄したウンチで粘土遊びが始まる。排泄直後はまさしく皮膚の温かさで手ざわりが良い。自閉症の子はヘッドギアをしている。自らの頭を繰り返し繰り返し壁に、扉に、出隅にと打ちつける。木製の様々な部分が傷つき、破損する。子供の安全のために、建築材料と納まりに細心の注意が必要である。

四半世紀という時間の流れの中に「破壊」と「創造」を繰り返す

壊されるたびに次の工夫をし、また壊される。その繰り返しがこの

25年の記録であり、これから先へとつながる「小さな歴史」となる。傷跡が残っているものもあれば、創造と再生をくり返しているものもある。この建築が「生物」として生き続けている証拠である。昨年、突然増築の話が舞い込んだ。国の方針で、子供1人当たりの面積を3.3㎡から4.95㎡に増やすことによる増築工事である。補助金による事業で、発注年度内の計画、設計、工事完了までとのこと、設計4ヶ月、工事5ヶ月という突貫工事となった。

奇をてらわず、無駄を省きあたりまえの材料で安全な「家」をつくる

朝起きると、子供達は皆寝室である和室から「廊下」に出される。「廊下」は通路としてのそれではなく、「生活すべての場」である。顔を洗って、歯を磨いて、着つけや身づくろいの指導を受け、さまざまな遊びをする。そのための広がりをもたせるとともに、限られた職員数でケアができるようにと、死角をなくしたパースペクティブな広がりをもった「廊下」とした。走り回る子供のために、腰壁や建具、コーナーの出隅などは木製として、欠損が大きくなったら取り替える。

自然通風、自然採光、自然換気

赤城山の南山麓は冬は赤城山に遮られて、群馬県特有の「空っ風」の影響が少なく温暖である。夏は周囲の木立ちや、風上にある人工池の表面を伝って吹き上がってくる冷気のおかげで涼しい。大自然の中にある施設として、自然通風、換気を原則とし、居室の手元の窓と、上部の窓、廊下への出入口の引き戸と欄間窓、廊下吹抜の高窓と、高さの違いによるドラフトを利用した空気の流れによって、こうした施設特有の臭気が溜まらないようにした。食堂は左右を丸い庭に囲まれ、方位の異なる2つの庭の双方の風向きや温度差を利用した空気の流れを利用して、子供たちが唯一愉しみとしている快適な食事ができるようにした。